

# 南アルプスの自然遺産

南アルプスの自然は、100万年前から始まった急激な地殻上昇に伴って形成された峻険な山岳地形と、その山稜一帯に残されたおよそ2万年前の氷河時代の遺物、豊かな降水量と複雑な気象条件がもたらす多様な生物相に代表されます。ここでは、南アルプスの山々についてと、世界自然遺産の4つの登録基準（クライテリアvi~x）に沿って、南アルプスの自然の特色について紹介していきます。

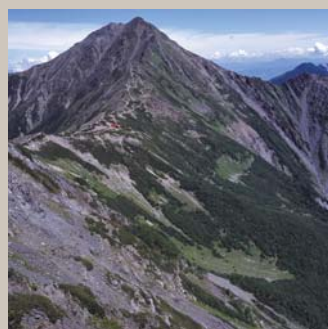
## 南アルプスの山々

南アルプスとは、富士川と天竜川に挟まれた延長が100km以上、幅が50kmに渡る大きな赤石山脈の高山一帯を指す呼び方で、北から、甲斐駒・鳳凰山系、白根山系、赤石山系の3つの山系からなっています。これらの山系には、仙丈ヶ岳、北岳、中白根山、間ノ岳、西農鳥岳、農鳥岳、塩見岳、荒川三山（前岳、中岳、東岳）、小赤石岳、赤石岳、聖岳の13座の3,000mを超える高峰があります。

また、山地の北端の孤峰・甲斐駒ヶ岳は3,000mに少し足りませんが、鳳凰三山とともに南アルプスを構成する主要なピークとなっています。また、これらの山岳地域を大井川・天竜川・富士川各水系の谷が山稜近くまで深く切れこみ、南北方向に大きなV字谷を形成しています。



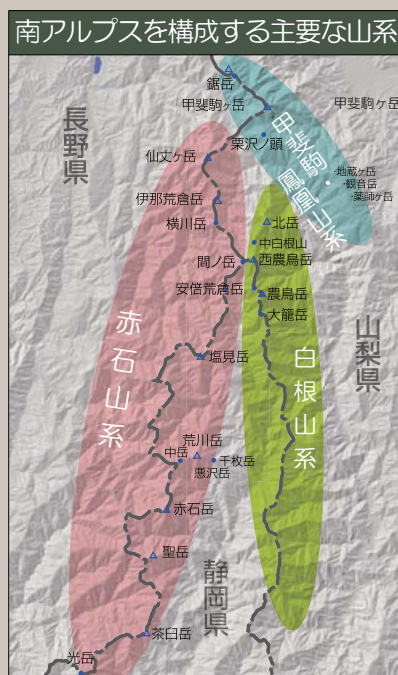
甲斐駒・鳳凰山系（甲斐駒ヶ岳）



白根山系（北岳）



赤石山系（荒川岳）



## 南アルプスの自然の特色

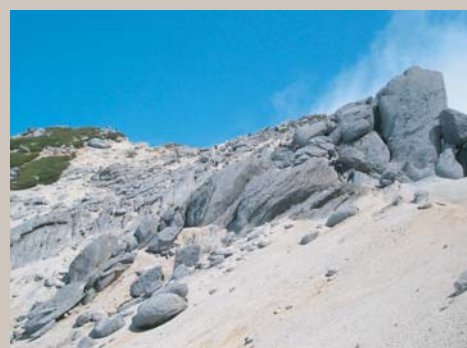
### (1) 地形・地質 (クライテリアviii)

南アルプスの地質は白根山系・赤石山系が主に中生代の付加体からなる一方、甲斐駒・鳳凰山系は花崗岩でできています。隆起による山脈の成立は、岩石の古さに比べて新しくここ100万年ぐらいにわたる急激な地殻の上昇によるものです。

この山地の内部には、深海底を造っていた岩石が長期間の地殻変動を受けて隆起してきた記録が見られます。また、現在でも引き続き隆起活動と温暖多雨な気候を反映した深い峡谷と、豊かな植生を持つ地形が発達しています。



海洋性岩石（海洋玄武岩とチャート）からなる北岳バットレスの大岩壁（撮影：村松正文）



甲斐駒ヶ岳山頂花崗岩



南アルプスの定高性を持つ山稜とそれらを削り込むV字谷（静岡新聞社提供）

### (2) 植物相 (クライテリアix, x)

南アルプスは、2,000mにおよぶ標高差があり、気候的には温暖な太平洋側に近く、冬季の降雪量は日本海側に比べると少ないですが、夏季の降水量は多いことが特徴です。

年降水量は、静岡県側の大井川上流で3,000mm、山梨県側の野呂川流域で2,000mmあり、周辺の平地部に比べて1.5倍以上、紀伊半島や亜熱帯域の沖縄地方に匹敵します。このような気候条件から、亜高山帯以下の地域では、鬱蒼と茂った広大な天然林が発達しています。

標高差が大きいことから、常緑広葉樹林帯（静岡県側）から高山帯まで、比較的明瞭な垂直分布が見られます。また、それぞれの植生帯には、いろいろな地形に応じて生育する多様な植物種や、群落が見られます。特に高山帯の主稜線には氷河期の遺存種や、日本列島の限られたところしか分布しない種、南アルプスのみに分布する種が生育しています。キタダケソウ、キタダケトリカブト、キタダケヨモギ、ムカゴトラノオ、タカネマンテマ、タカネヒランジ、ホウオウシャジンなどはその一例です。

高山植物



キタダケソウ



チョウノスケソウ



タカネヒランジ



ホウオウシャジン

森林植生



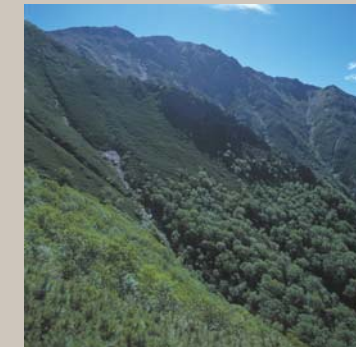
深い森林（駒鳥池）



シラビソ林（鳳凰三山）



野呂川上流から見る甲斐駒ヶ岳



北岳西面の亜高山帯

### (3) 動物相 (クライテリアix, x)

南アルプスには、亜高山帯から高山帯に生息し、分布が南限となっているほ乳類のアズミトガリネズミや、ホンドオコジョが生息しています。鳥類のライチョウは、本州中部の高山帯に残った氷河期の遺存種です。そのうち、南アルプスに生息するライチョウは、日本の南限、世界の南限にもなっています。両生類では、まだ南アルプス南部の限られた地域でしか確認されていないアカイシサンショウウオが生息しています。昆虫類では、タカネキマダラセセリ南アルプス亜種や、クモツマキチョウ南アルプス八ヶ岳連峰亜種のように世界で南アルプスおよびその周辺のみに見られる固有亜種が数多く生息しています。



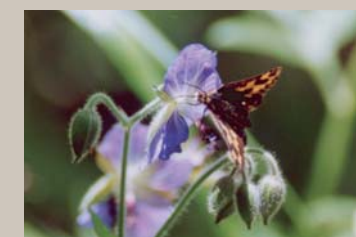
ホンドオコジョ（撮影：佐藤元一）



アカイシサンショウウオ



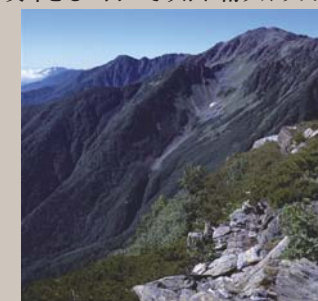
ライチョウ



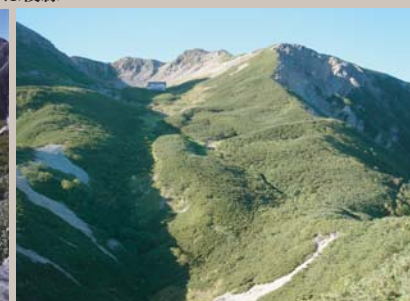
タカネキマダラセセリ

### (4) 自然 (山岳) 景観 (クライテリアvii)

南アルプスは、地形・地質、動植物分布などの特色を反映して、深い谷間の森林帯から高山帯に至る山岳景観は多様で、我が国でも優れた美的価値を有しています。北アルプスや中央アルプスは、尖峰をもつ山々ですが、南アルプスは稜線に比較的平坦な地形が広がります。山頂部や稜線、尾根などの開けたところで望む周囲の山々の展望は、迫力があってすばらしいものです。また、これらの場所では、数多くの特産種を含む高山植物群落（お花畑）を見ることができます。



八本歯より間ノ岳を望む



仙丈ヶ岳カールと仙丈小屋



高山植物群落（お花畑）